



CRESCENDO VI



■ Be careful of all the stories because it is written completely by the serial story.
The story of RUI and AOTO goes and goes though for returned in the present
world and progress is also.

ADULT ONLY

CRYSTAL

■ CRESCENDO-SIX ■



■18歳未満の人物及び現実と空想の区別がつかない人物などの描写、挿入はご遠慮ください。
もちろんこの本の、一部または全ての無断転載、引用等を禁止します。

■インターネット上（ホームページ、UP掲示板など）の無断公開は絶対に禁止します。

どんな言い分があるうとも禁止します。
尚、読者様、関係者のご連絡により結構判明します。
注意してもきりが無く、掲載された場合警告無しで対処します。

CONTENTS

JIBAKU-SYSTEM 2002.12.30

主な収録作品達

p 5 「ホンシツノカタチ」

- 小説 しだれ栞
- 挿絵 むらやまたかひろ

p 15 「CRESCENDO 6」

- 涼樹 天晴

p 41 「おてつだい」

- すとれ〜とF

その他

p 14、39、40 「駄文、落書き」 涼樹 天晴

p 45 「宣伝(笑)」

p 48 「参加者あとがき」

p 50 「奥付」

■注意事項■

インターネット上(ホームページ、UP掲示板など)の無断転載は絶対に禁止します。
どんな言い分があろうとも禁止します。
18歳未満の人物、現実と妄想の区別がつかない人物、以上の閲覧、購入はご遠慮くださいませ。
もちろんこの本の、一部または全ての無断転載、引用等を禁止します。

Copyright 2002 Jibaku System
all rights reserved. no part of this book may be reproduced or transmitted
in any form or by any means, electronic or mechanical, including
photocopying or recording, without permission in writing from publisher.
published and distributed by Jibaku System keeping group.

『ホンシツノカタチ』

Sentence しだれ桜

Illustration 朶らやまたかひろ

ツインテールの髪。

アルビノ特有の白い肌。

遺伝子操作を促されて生まれた少女。

ホシノ ルリ。

少女と言うだけ会って、まだその身体付きは幼い、
黄金色の瞳。

少しうつろだ。

その彼女は、ゆつくりと廊下を歩いていて、

ゆつくりと、だが、毅然とした足取りで、

少し疲れた足取りで……。

その時、ふとルリは顔を上げる。

正面を歩く人間に人に見覚えがあったからだ。

「あつ、ルリちゃん、お疲れさま」

「おつかれさまです」

「こんな夜更けにどちらへ？」

「ウリバタケさんに呼ばれててね？　こんな夜更け
に一体、何の用事なんだか……。」

「そうですか、ごころうさまです」

「ルリちゃんは、今日は上がり？」

「はい……。」

「お疲れさま」

「はい、お疲れさまです……。」

そして、すれ違う二人。

ルリは、なぜか青年の後ろ姿を見てみたいという、
衝動に駆られかけたが、自らそれを押さえ込んだ。

考え出した。

なぜ、そんな気持ちになったのか？

そして、結論を出さないようにつとめた。

今日という一日を反芻すること……。

1

「はあ……。」

私、ホシノ ルリはため息をついた。

やや呆れ気味に、強く、
何事も起こらない今日の一日の終わり。

寒い一日だよなあ……などと思う。

木星蠍蝎との戦いの日々の中……。

地球連合軍との戦いに似た日々も含めて、火星へ
と旅だつて……。

つまらない日々……。

そして、それぞれの思いを抱きながら、旅は続く、

というか……。

みんな何かしらを持っている。

でも、ほとんど見えることなく表立って見えるの
は色恋沙汰の話ばかりで……。

艦長とおとぼけ三等兵のアキトさん、そして、オ
ペレーターのメグミさん。

表だって、この周りで繰り広げられる桃色三角な
やりとり。

それぞれの間で繰り広げられる人間模様は見てい
て……。

ため息をつくのにつくのに対応しい光景で、それ
を横から眺めている私は、どこか滑稽なのだ……
と思うわけで……。

なんで、彼らはバカをやれるのだろうか？

そのことを不思議に思うわけで……。

私が気にしても仕方のないことなだけどね。

まあ、いい加減腹が立っていたのも事実なんだけどね。

2

メガネを光らせる漢（おとこ）が一人……。

胸に熱い情熱をたぎらせながら、薄暗い部屋の中でモニタを覗き込んでいる。

「で、なんすかー？ 俺に用事って？」

その隣で、一人の青年が、呆れ気味に声を上げていた。

かなり不眠そうにしている。

「青少年よ！ お前は男として青い性をたぎらせていないか！」

「はっ？」 いきなり何を言わんばかりに、青年は呆れ気味に言葉を返している。

青年の名前は、テンカワ アキト。コック兼機動兵器エステバリスのパイロットだ。

隣で妖しくメガネを光らせているのは、整備班班長ウリバタケ セイヤ。

「だから、青い性を持って余しておらんかと、聞いてるんだよ？」

「……………何がいたいんすか？ あんたは」

呆れ気味の言葉を吐き出すアキト。

「くうくうっ！ 話のわからんヤツだな！」
ウリバタケはモニタから視線をそらすとアキトを見据えた。

「だから、その青い性とやらと、俺と何が関係ある

んすか？」

アキトは呆れながら、なおも問いかけた。

「……………まあ、いい。お前は女性周りには恵まれているようだから、わからんのだろう。だが、しか

あしっ！ お前も、俺が今からやろうとしている

ことに対して、興味があるはずだ！」

アキトの前で拳を握り、熱く、熱く語るウリバタケ。

「でっ、何をするつもりなんすか？」

それを冷めた瞳で見つめるアキト。

「ないも分かってないな、貴様は……………」

ウリバタケは、半ば呆れるように咳くと、大きく

ため息をついた。

「こいつは、自覚があるんだか、それともワザとか

どっちなんだ……………」

続けざまに咳いた言葉。

その時、小さなアラームが薄汚い部屋の中に響く。

「おっ！ ターゲット、部屋に侵入……………」

おもむろにバソコンのモニターに向き直った。

「ターゲット？」

アキトが言葉を繰り返す。

「いいから、見てみる！ お前のその青い性を処理

してやろうという試みだ」

そして、そのモニタにうつる光景を青年に見せる。

「なっ！」

アキトは驚いた声を上げた。

3

「疲れた……………」

などと口に出すのは、本当に疲労を感じているか

らだのだろうか？

私は分からない。

ただ、眠りたいと言うことだ。

逃避……………」

それ以外の何ものでもないことを自分で計りつつ

服に手をかける。

ゆっくと制服を脱いでゆく。

全てを脱いで楽になりたい。

その思いがある。

脱げば楽になれるのだろうか？

というよりも、束縛の象徴であるように思うナデ

シコの制服。

開放されて、一人にかえりたいと願う。

その思いは不当であろうか？

むしろ、どこにも行く術のない私。

ナデシコを出たら行く当てのない私。

ここ以外に帰る場所を持たないからこそ、ここに

固執するのだろうか？

そんなことをぼんやりと考えながら、一枚一枚自由になる。

シャツに指が触れる。

そして、考え込む。

どこかに感じる違和感。

そして気がつく。

「……………」

またですか？

そう思う。

思わず口の中から笑いが漏れそうになる。

そして、私は、そつと指を動かした。

4

「なっ！」

アキトは思いきり声を上げた。

その視線の先にあるモニタ。

「どうよ？」

ウリバタケはニヤニヤとしながら、その画面に食い入るように視線を送る。

そのモニタでは、ルリが人知れずストリップを開始していた。

その幼い身体をゆっくりと二人の男の前にさらしてゆく。

のんびりとした動作で、ゆっくりとスカートに手

をかけると、ストンッと落とす。

愛くるしい白いショーツがはつきりと視線に飛び込んでくる。

上着は、半分脱ぎかけで、中途半端にその小さくも可愛いおっぱいが、露わになっている。

言葉もなく見つめるアキト。

「思ったよりも小さいな……………」

などとルリのその愛らしいオツパイを見つめるウリバタケ。

言葉もなく、バクバクと口を開きさせるアキト。

「どした？ いいだろう？」

頬をだらしなく、でれーつとさせながらアキトの顔を覗きこむウリバタケ。

「おっ！ ばんつに手をかけたぞ！」

興奮しながら声を上げる。

「いけ！ いけっ！」

画面に向かって声援を送る。

アキトは、ぼけーつと画面を見つめていた。

「いいもんだろ？ どうよ？」

確認するようにしじみと呟くウリバタケ。

「なっ、なんで？ 俺にこんなもん見せるんだよ？」

その言葉に我に返ると、慌てて声を上げる。

「こんなもんって、お前…………興奮してこないか？」

この！ この！ このナデシコの中で唯一の幼女！

その幼女の生着替え！ 萌える！ 熱い！ ストリップ！

言葉もなく呆れきっているアキト。

「お前さんも、中途半端に美女に囲まれてるから、溜まってるかと思つて誘つてやったんだが……………」

この覗きという行為の醍醐味は、お前みたいなハンバモンには、まだ早かったか？」

「なんだよ！ ハンバモンって！ それに俺を誘うんだ！」

怒りに近い声を上げるアキト。

当然といえば当然。

自分が選ばれた理由が分からない。

「お前には人の好意がわからんのか？」

「それは好意でなく、悪意のような気がするの、俺の気のせいスカね？ で、本心は？」

しばらく真面目に見つめ合う二人。少し間をおいてから馬鹿正直にウリバタケは口を開いた。

「共犯者がいれば、罪が軽くなるだろう？ お前は辛い女運がいいみたいだからな」

「俺を共犯者にするな！」

「まあ、些細なことは気にするな……………」

「些細なことじゃない！」

アキトが全力で抗議しようとした瞬間、ウリバタケが奇声を上げた。

「おほっ！」

会話を打ちきるように大きく声を上げ、そのまま食い入るようにモニタを凝視する。

「えっ！ ルツ、ルリちゃん！」

その言葉に引かれ、ワンバターンの様に声を上げるアキト。

その後のルリの取った行為に、アキトも訝い忘れウリバタケ同様、食い入るように画面に視線を奪われていた。



服を脱ぎ捨てるとベッドへと足を運ばせる。
そのまま、腰をかけるとベッドのスプリングが、
きしと音を立てる。

そして、おもむろにルリは、舌を出す。

まるでいけない悪戯をする子供のよう……。

しばらく、じつとその状態のまま、動かない。

じいっと声もなく自分の身体を見つめる。

言葉は出ない。

そして、ゆっくりと、

だが、明らかにおびえの入った形で指を泳がせた。

自分の身体の上へと、

つつつと身体の上をほう指先、

泳ぐ。

白い肌の海の上を……。

そして、唐突に……。

甘く切ない息が漏れた。

「あつうん……」

熱い声。

漏れる……。

蓋をしても……。

「くつうううん」

はふううつと甘い吐息をもらしながら、乳首をく

すくる。

「あつ……くつふう……」

ぎこちない仕草で、

指が動く。

大きく広げた足。

股の付け根にそつと指を運ぶ動作。

どこかおびえたように、

震えながら、そつと……。

のめつと、糸を引くナメクジのように……。

シヨーツの上をほう。

その緩慢な動作で……。

グリグリと一点をさすりはじめる。

筋が次第に、

「くつ……はああつ」

その度に、甘く切ない声を上げる。

じいっとある一点を見つめるように、指だけは動

き続ける。

そのまま乳輪をクリックリつとなでさする……。

……

「あつ！ んつう……いいつ」

甘い儀式。

熱く繰り広げられる痴態。

荒く声を上げず必死にその行為に没頭している。

まさか、見られているとは気がつかずに……。

その、己に没頭し深く落ちてゆく仕草。

「はっああああ……」

声がプレスとなって漏れるたびに、周囲を熱くし

ている。

自分の耳に届く言葉が、深く落ちる。

導く。

自分を……。

刺激の棘へと……。

「おいおいおいおいおいおい……」

ウリバタケは何度も同じ言葉を繰り返す。

「……………」

アキトは息をのんだ。

ゴクリと思いきり唾を飲み込んでいた。

「本気か？」

くびりと唾を飲み込むウリバタケ。

期せずして、二人が取った同じ行動。

「ルリちゃん……なんて事を……………」

「プライベートのプロテクトを越えて、着替えても

見ればラッキーかと思つてたんだが、マジか！」

興奮気味に呟くウリバタケ。

思わずコンピューターをチェックする。

記録は成功している。

そして、仮想映像でもない。

「うおー！ 萌える！ 燃える！ この燃える展

開はどうだ！

生きてて良かったらう！ 青年！」

「るっ、ルリちゃんて……こんな大胆な子だった

んだ」

鼻血を垂らし、口を半開きにして答えるアキト。

「いやあ〜人知れず、行ないけない行為！

大人への階段を上る少女！ 感動だ！」

バカのように声を上げるウリバタケ。

そして、ただひたすらにそれを見つめている。

でれーと伸びる鼻の下。

情けない顔をした男と、何も言えないでいる青年
の二人が狭い部屋で、人知れず行われる秘め事に視

線を奪われていた。

7

私は、呆れるしかなかった。

艦橋に私はいた。

あの後、ハッキングのことに気がついて、ダミーの映像ウリバタケさんに流すようにしておいて、ウリバタケさんをモニタするために艦橋に戻ったのだ。隣にはパジャマを着込んだ操舵師のハルカ・ミナトさんがいる。

「大人って、こんなことするんですか？」

「さあ、この人はかなり特殊な趣味だと思うけど……」

かなり呆れ気味の顔をしている。

二人して、見上げるモニタ。

というか、オモイカネも、もう少しセーブしてくれるとうれしいんですけど。

理由は分かるけど、どこか醒めた目で見ている自分がいた。

「まあ……しかたないんじゃない。」

ルリルリも大人になれば、分かるわよ」

私の隣でアンニュイな声を上げながら、男二人の情けない行爲を見ているミナトさん。

フェロモンを周囲にまき散らす大人の女性も、他人のバカげた行爲には、どこか無関心だ。

「私は、分かりたくない気がします」

「でしようネエ……」

ふああああと、声を上げる。

「うーん、でも、ちよつと呆れちゃうわねえ……ウリバタケさんはともかく、アキト君まで……」

「……」

「アキトさんは意外でしたけど、ウリバタケさんって誰が見ても、そんな感じがするんですか？」

「ルリルリはどお？」

「私は分かりません。ただ、してもおかしくないかなあと考えてました」

「あつ、やつぱり」

ミナトさんは呆れるともつかない言葉で、返事をしていた。

「ウリバタケさん、やたらとオモイカネにハッキングしかけてましたし」

「ルリルリ？　じゃあなんで、気づいてたのに怒らなかったの？」

「興味ありましたから」

「へ？」

少し驚いた顔をしているミナトさん。少し間の抜けた顔だ。

「興味って？」

「なんで、私のプライバシーを見たいのだろうか？　つて」

「で、念のためにプロテクトかけた、結果がこれ？」

「はい……」ジッと見つめるモニター。

「あははははははは」

ミナトさんの乾いた笑いが響いてきた。

「でも、オモイカネも少しやりすぎです」

「まあねえ、これは、いくらなんでも……」

作られたルリの痴態の映像はルリにはいささか刺激が強い。

「後でお仕置きしておきます」

「今じゃないの？」

「今したらばれますから、それに、少し学びました」

「学んだ？」

ミナトさんが不思議そうに声を上げる。

「はい……」二面性って、誰にでもあるんですわ？」

「自分以外にも……」

「それはあるんじゃない？」

「いえ、オモイカネにもそう言う一面があるとは思わなかったと言っ話です」

「どういうこと、ルリルリ？」

「オモイカネが過去のエッチビデオのライブラリまで持つてるなんて、私にも隠してる、不可視属性領域があるとは思わなかったから……」

「それって、どゆこと？」

「だから、簡単に言うと、オモイカネですらも、私に見せたくない側面をもっていたと言っ話です」

「あつ、なるほどね……。オモイカネって男の子なの？」

「えっ？　オモイカネに性別は……ないと思いませんか？」

「男の子なら、欲望の面を隠しても仕方ないんじゃないかな？　って思ったわけよ」

あの二人、最後はどうするんだろう。

私が、そんなことを思っていたら……」

「ルリちゃん……もう、交代の時間終わってらるでしょう？　ミナトさんと何してるの？」

背後から、声がかかって振り返った。

「艦長……こんばんわ？」

ミスマル ユリカ艦長がそこにいた。アキトさん
ラブラブのどこかお問抜け人間だ。

寝ぼけ眼に不思議そうな顔をしている。

「あっ、あつあははは」

いきなりミナトさんが乾いた笑いを口にしはじめた。

ウインドウを隠そうと身体を縦にしようと身じろぎしている。

丁度良いから、艦長に見せてみよう。

なぜ、私がそんなことを思いついたのか……。

多分、少し怒っていたのと、その後、どうなるか
見てみたいと思っていたからだと思う。

「艦長、これ見ます？」

「るっー ルリルリー」

隣で制止しようとしたミナトさんをしり目にウイ
ンドウを艦長の目の前に持つてゆく。

「ほえ？ 何、ルリちゃん、これ……」

だんだんと言葉が失う艦長。

赤くなった顔が、次第に青くなって、最後はその
顔から湯気を吹き上げている。

「なっ！ なっ！ なにこれ……」

そう叫ぶと、全力でダッシュしてゆく。

あつと言う間に艦橋から姿を消す。

行き先は、多分あそこだろう……。

メグミさんにもこのデーターを見せてみてもいい
かもしれない。

「ルリルリ……」

「どうかしましたか？ ミナトさん」

いじわるく言ってみる。

「修羅場だゾー」

すぐさま、楽しそうな言葉が返ってきた。

「意外ですね？」

「何が？」

「ミナトさん、少し楽しそうです？」

本当に意外だった。

あの一瞬、ウインドウを見せないようにしたのに

……。

「ルリルリ、さっき言ってたじゃない？ 二面性が
云々って？」

「はい……」

「それって、女にも言えるんじゃないかな？」

「あつ、なるほど……」

本当、勉強になったような気がした。

「でも……」

そこで言葉を閉じるミナトさん。

「でも？」

じつと見つめ合う。

「ルリルリにも人間らしい一面があることが分かっ
て、少しホッとしたわ」

「そうでしょうか？」

「うん」

そう言うとき小さく笑ってウインドウに向き直るミ
ナトさん。

「さあ……修羅場だゾー、どうなるのかしらね？」

今私に笑って見せたのと質の違う笑みを口元に浮
かべるとウインドウに向き直る。

予想通り、艦長がウリバタケさんの部屋に乱入し
てゆく。

「うっわ……もめてるもめてる」

どこか楽しそうにその様子を見ているミナトさん。

その横顔を見ながら、私は思っていた。

この人にも二面性はある。

オモイカネにもあつたくらいだから、きつと。

きつと、誰にも……。

そして、艦長に見せた私にも……。

歪んだ考えだ。

もしかしたら、あの桃色三昧な三角関係もそうい
う二面性の人間関係のもと成り立っているのかわし
れない。

二面性は、私にもあるのかもね。

というか……きつと、私、艦長に嫉妬してる。

だから、バカ騒ぎに私も一石を投じてみたいと思
っていたのかもしれない。

これからの旅が、少しだけおもしろくなりそうだ

と、私は思っていた。

おしまい

あつ、繰り返しますが、あの画像はオモイカネが
ウリバタケさん達の欲望につきあう形で作成された
画像ですので、本当の映像ではございません。

あしからず。

はあ……。ホント大人って、バカばかっか。



■書かなきゃいけないシリーズ■

本来もうとっくに完成してないといけないもの…ごめんM治さん…
こんな事ばっかやってるよな～

うはあ…
(木下とM治の…
2002年8月に実況
モリタの…
3. 書きこめ…





CRESCENDO VI

presents by
"suzuki amaharu"

It is the last continuation to tell.
CRESCENDO V





どうしてか
直に話したんですけど...

聞いてあげてあげて

ルリちゃんね
おはようございます

ルリちゃん忙しい
のにありがとね



あ...

アキトの事とか...

ずっとね...
考えてたんだ
これからの事とか...



え…

探しにね…
行かない事にしたんだ

だって…

なんで…



私ね…
アキトを…

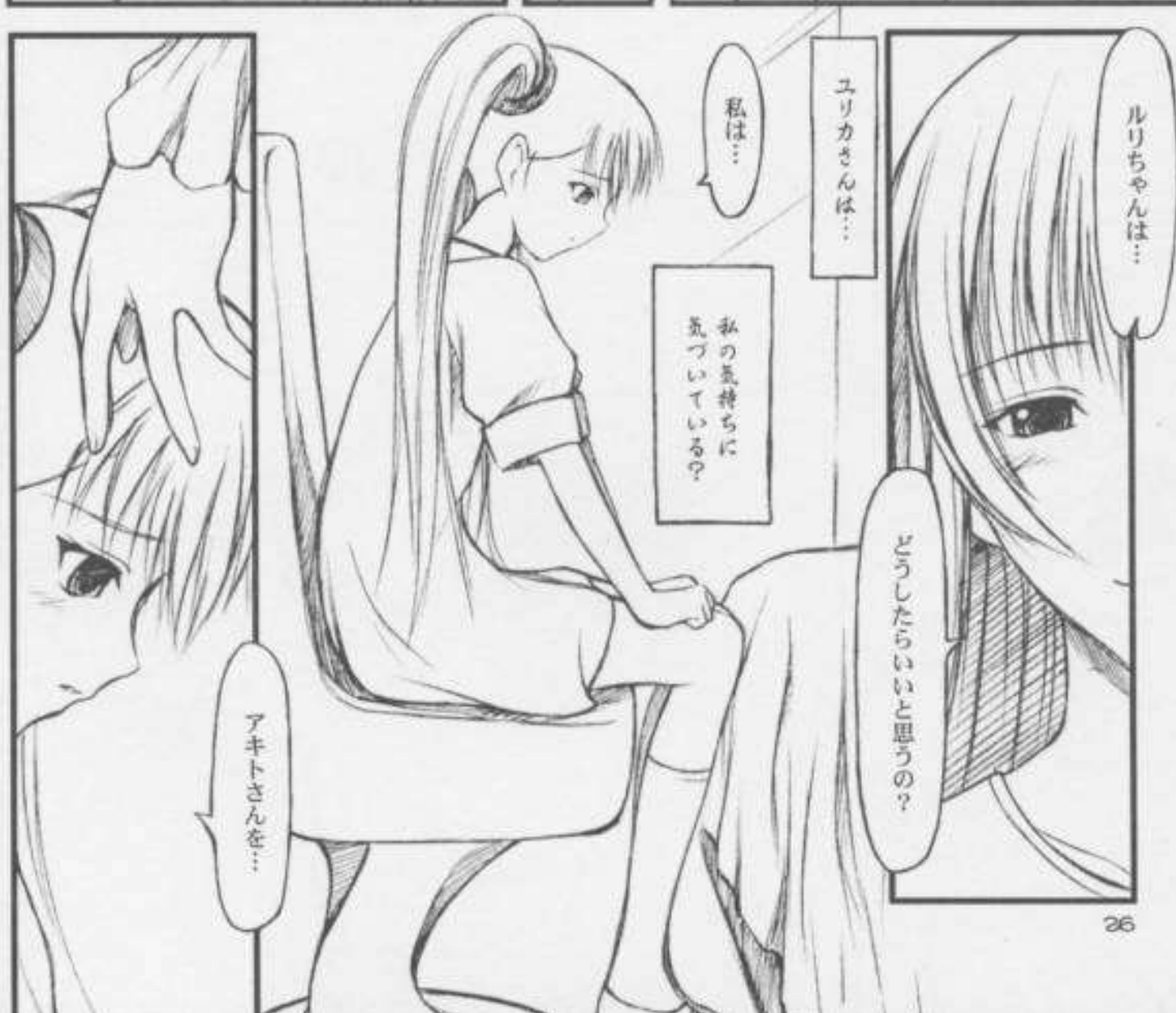














ルーリ
ちゃん！

モギヤ !!

ルリちゃんも…



「好き」じゃなくて…

「愛してる」…
だったんだね…

ごめんね…
一人締めしてて…



えっ

それでね4人で
一緒に暮らそ

こーんな美女が2人も
想ってるんだから
責任とらせなきゃ、ね

よっし、ルリちゃんも
アキトと結婚しよっか

うん、決定！



え…

もしかして…

この子のおかげかも
しれないんだって…

うん、5人だよ
遺跡と融合して無事だった
理由は聞いてる？

こ、5人？



4人？

あ、ラピスちゃんも
いれると5人だね

だから…

私は大丈夫だよ…
待っていてくれるから

ルリちゃん…

アキトをお願い…

私とアキトの子供…

停滞した長い時間の中でね
ずっとね産まれるのを
まっけてくれたんだ…

△ 楓ジャンパー騎士の子供…

この子を無事に産んで育てる…
それが私のする事だから



あふん...

あ...

くうん

あ

あ

あぐん

ひい



はあ

はあ

ひん

はあ

ん...

ひん



ひぎい

ああ



殺殺

んん

あ

ひい

ひいひい

あ

くう

そ、そんな…に

これ…た…ら

オホオホ

オホオホ

あく

お尻…壊…れちゃ…う

ひいひい

あぐう

ひい

あひ

ひい



はあ

はあああ

お風呂あき
ましたよ

アキトさん？



ああ…

まだ…
悩んでるん
ですか？

37



それに…

これは…

イネスさんから
だいたい聞きました…

謝らないで下さいね

俺は…
ルリちゃんを…

きょ…

置いていかれるのは
嫌ですから…

それが私の答えです…

ルリちゃん…

アキトさんのせいじゃ無いです…
自分で考えて決めて私が望んだ
事ですから…

それと…

あの時の事…全て思い出して
いるんですよ…



多分CRESCENDO
好きと思う一歩
でもまだ続かない
ではあきら
めてみるよ

これまたあきら
めようよ
でもまだ続かない
ではあきら
めてみるよ

いやー
私も
どうも
いらないよ
いやー
もう
もう
もう

■ CRESCENDO7 予告 ■

夜空に心のうちを涙と共に叫ぶハーリー
余抱ふっこそ最後の勝者は自分だといわんぼガリの微笑もラピス
そして関係ないといわんぼガリの情報者たち…
この人物達に乱入未来は出番はあるのか？
もともと一冊で終わるはずだったのが力不足により消化しきれず
長々とダラダラと続いたこの話もついに年暮の納め時ラストステージに…
次回CRESCENDO最終回
「最後に笑うのは誰だスペシャル」
もちろんホラです、でも最終回というのは本当です。

ハーリー
君のまはあんなか？

■ 描きたい物シリーズ ■

今回はオリジナルだけどー

爆乳の学生というコンセプトに最近ちょっと

足首くらいまではまってる…その程度(笑)

で、落書きに出目金タイプ、アンバランスボディー

描くとしたらこんな話か？

こんな乳しててフェロモンをまきまくり、ノーブラTシャツで

無防備に家内をうろつく妹(つまり兄妹ネタ)

ついつい視線が胸にいってしまう…

ついに抑えきれなくなった兄の欲望が炸裂～

押し倒してその手のひらで収まりきらない巨胸を揉みしだき、

柔らかい双丘に顔をうすめながら舌をはわせ愛撫する…

盛り上がった二人は最後の一線を越える…

ってなんエロゲーとがてありそうなパターン

まあ容態ですな(笑)

あんな胸は良くなじませー

この胸の大きさ？
↓

てもやっぱりこういう華奢な娘も好き



おこっだい

2002.12.24 水とねとF

ルリルリ
どこい番で
影、タイルね♡

ナギちゃん
点描々
とこラブリーね♡

うーす

はー。

いーり君
カレー
ちやうカラ

カレー

はーっ
カレー
カレー



で、で、で、
僕が料理係
なすなすかー

んやうー
いっけい

んく
どこれ

まっましたあ
これど作業能率も
120%ね♡



なっ!!

なす
これ...



甘
ま

うん。
甘い...

甘かた
なすか...



え...
おん



大人用?...



超激甘
.....



ちやんと
超が付いてる
GTX...



艦長!!

サッロー太さん…
なんてことを…

とても大人な
カレーだったよっね
気に入ったわ

あま…
あま…
艦長!!

ごきりつ
なまこもた以上
解決する方法は
ない…

ど…
ど…
ど…

合体よ

*注サッロー自身です。



見事な合体だわ

この刺激を

キャッチしたらいい

か..
がんぢよあ〜あ

ごめん
泣いて

カレーは
甘かった
けど...

あ

ああん

おおっ!!
やあやあ
ちんぽ

ルリルリ
もっとぞぞぞ
ニムニム

もしもし、ボク
ハイリーちゃんから
おんねい
ニムニム...

■ 武器娘 ■

まだほとんど設定すらできてない…
試作キャラの試作とゆー
もうなにがなんだが…(笑)
服装は変態形シスター服で
行こうかと…いいのガ?

2009年

来年、5月か6月あたり(?)
発売を目標に
シナリオ:しだれ祐
原画原案:涼樹天晴
でゲーム作ります(商業)。
もちろんエロゲー(笑)
かなり好き勝手、自分達の趣味優先で
作成できるのが魅力(笑)
しだれさん、基本は中出し
全穴攻略でいいんだよね?

元々コミティアで出した
コピー本が原案だったりして~
それをなにをとち狂ったガ、
しだれさんが暴走を
始めるきっかけに…(笑)

言が作らねばとー
色、髪の色とー色
うー
とうわー



■武器娘 -CHARACTER CONCEPT- ■

実際に視覚認識上、人間として攻撃しにくく、危険者すなわち敵と判断されにくい者。戦場において敵が兵士なら銃弾を打ち込めても子供…ましてや一般人のような婦女子を躊躇なく撃てるだろうか？

対抗手段はかなり限定され、それまでにかかなりの損害はできると予想…映画ターミネーターがいい例っすね。

あの殺人機械が美少女とかだったら油断すると思いませんか？

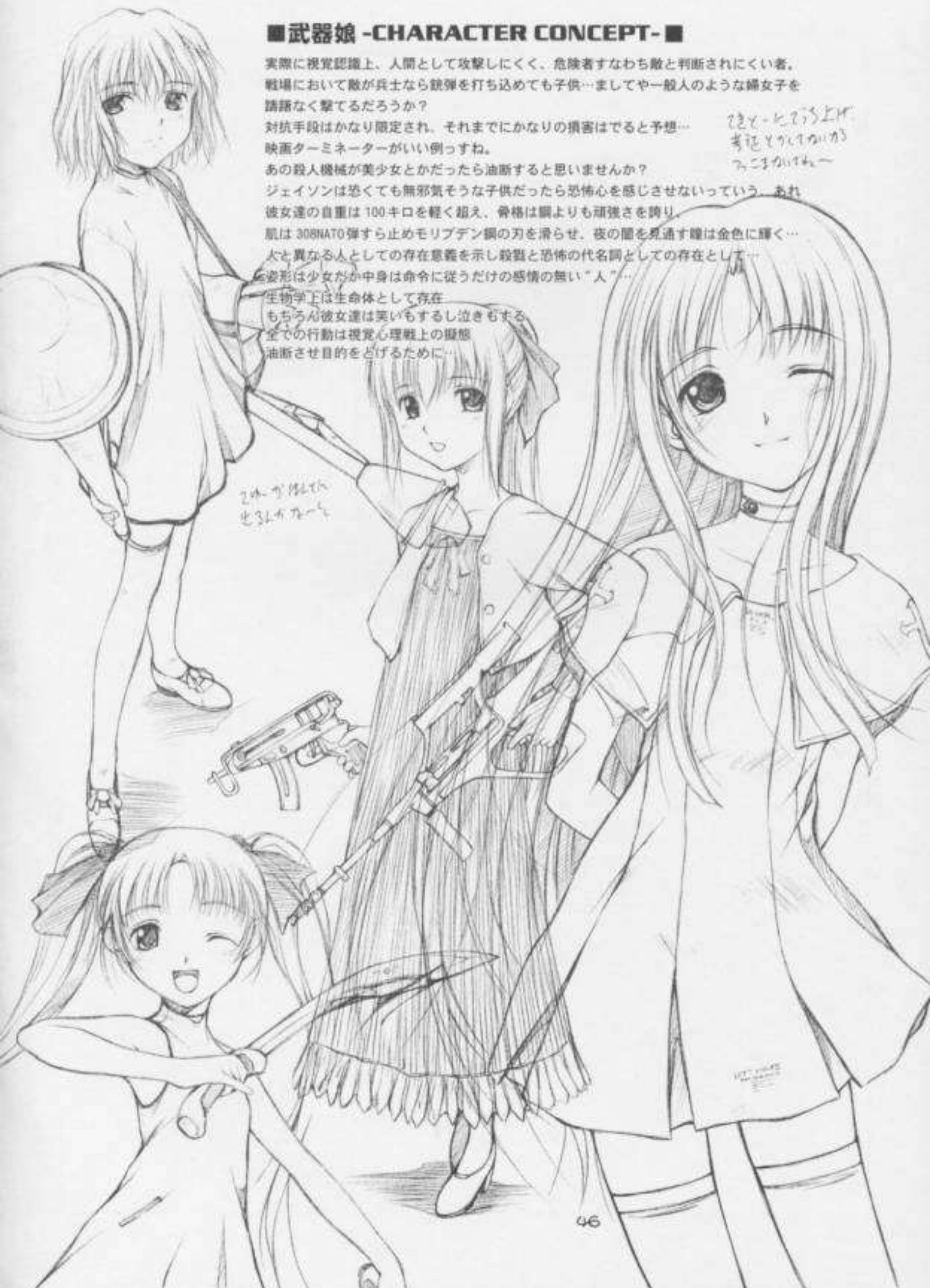
ジェイソンは恐くても無邪気そうな子供だったら恐怖心を感じさせないっていう。あれ彼女達の自重は100キロを軽く超え、骨格は鋼よりも頑強さを誇り、肌は308NATO弾すら止めモリブデン鋼の刃を滑らせ、夜の闇を見通す瞳は金色に輝く…大と異なる人としての存在意義を示し殺戮と恐怖の代名詞としての存在として…

…姿形は少女だが中身は命令に従うだけの感情の無い“人”…

生物学上は生命体として存在
もちろん彼女達は笑いもするし泣きもする
全ての行動は視覚心理戦上の擬態
油断させ目的をどげるために…

さきとてどう上げ
考証とかがいかに
ふこまかいねー

このサバサバ
とさしやうねー



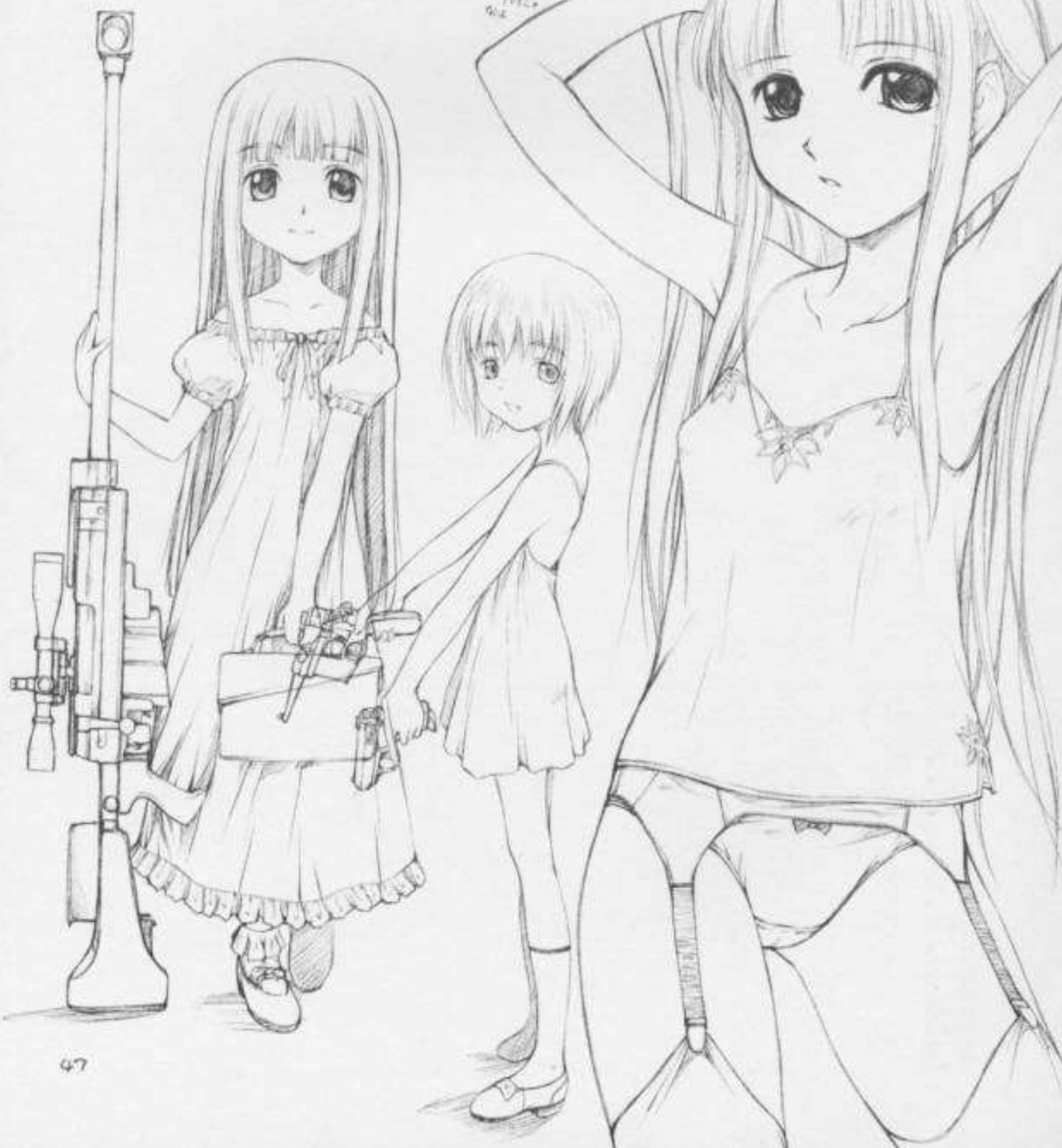
とゆうような少女と銃という狙った内容で作られた落書き本でした。こうゆうの何年か前にも一時期はやったよね～
まあ純粋な人間じゃないしこれなら○学生した外見持っても問題ないよね…(二人してニヤリ)
そして計画は実行段階に入り…いやまあメーカー(シュ○ール)もよく許可だしたもんだ(笑)…
『18禁でたとえ外見が○学生、伊利に見えても人間じゃないからなにやってもOKゲーム』の企画はスタートした…
とゆうわけでT田さんM治さん、ごめんなさい、電話じゃ言いだしづらくて…
いや書かないわけじゃないです～すみませんすみません(汗)
仕事あるうちが華っていうし…ないがしろにしてるわけじゃないです～

なまじり可愛いからか
あれだけ可愛くして

袋あきりまよとついでうしやー尻にも顔出してるよーで
そこはわがわが研究できなくて二やー腕のついで…等など
書いてました。ワッパはワッパとて録音してましたよ。

30分、5分は別々で。HEATの…

袋はワッパとて録音して
わがわが
うしやー



いつもお世話になっております。いやー僕には、コメディは無理でした。
 シリアス派なんだと、つくづく自分の力量の低さを思い知らされました。
 次回は頑張ります。m (_ _) m コメディ好きなんですけどネエ…… (; _ ;
 今回の挿し絵担当のむらやまくんの素晴らしい原稿に涙がちょちょ切れております。
 彼が原画のGHQが、好評発売中です。良かったらチェックしてくださいませ。
 あと、来年は、涼樹天晴さんと組んでエロゲーが……。
 「武器娘」と言う謎の単語を残しつつ、失礼します。
 今回も、お目汚し失礼しました。またありがとうございます。

連絡先アドレス：sidarezakura@hotmail.com

■しだれ桜■

あー昨日の日記、…あー、こぼれちゃったね。あー、来年の目標、…まじりておぼろし



ルリちゃん描いたの
 高校時代以来かも…

色々おぼろし
 さんま



むらやまたかひろ

↑ルリちゃん

■むらやまたかひろ■

どうも、も、どうも、…あー、こぼれちゃったね。あー、来年の目標、…まじりておぼろし



ど〜も、すとれ〜とFです。こんにちわ。

今回もバリバリにせときわどず(汗

さ〜て、これを終たらなにしようかな…

ま、とりあえず GCH版PSOに大復活だっ

ネットゲームばんぷあ〜いどすよw

あ、あ、あ

2002.12.24 すとれ〜とF

■すとれ〜とF■

…あー昨日の日記、…あー、こぼれちゃったね。あー、来年の目標、…まじりておぼろし

この本、精進までこの本に
支那の時間がある



奥付

平成14(2002)年12月30日 初版発行

発行者 涼樹天晴

発行所 自爆SYSTEM

ホームページアドレス <http://home9.highway.ne.jp/jibaku/>

連絡先メールアドレス kimidori@pb.highway.ne.jp

印刷所 トム出版様

毎度毎度お世話になって
いる本誌のスタッフさんへ
いつもありがとうございます
おかげさや

この本は、印刷屋さんが丹精込めて印刷製本して下さいましたものです。
万一、落丁乱丁本があったとして、それは本書数日前完全ギリギリに入稿するという
愚案に出た執筆陣の責任です…。ごめん。
本誌の、一部または全ての無断転載、引用等を禁止します。
定価はイベント、及び一部の同人誌取扱店舗にて表示してあります。
インターネット上（ホームページ、UP掲示板など）の無断公開は絶対に禁止します。
18歳未満の人物、現実と妄想の区別がつかない人物、以上の閲覧、購入はご連絡くださいませ。
2002 JibakuSystem, Printed in Japan

Copyright 2002 Jibaku System
all rights reserved. no part of this book may be reproduced or transmitted
in any form or by any means, electronic or mechanical, including
photocopying or recording, without permission in writing from publisher,
published and distributed by Jibaku System keeping group.



CRESCENDO VI



■ Be careful of all the stories because it is fiction completely by the serial story.
The story of RISE and ASITO goes and goes though it is returned in the present
edition and progress is slow.

ADULT ONLY